

No.16

令和8年6月市議会定例会

提 案 理 由 ( 要 旨 )

6月市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員皆様には、御健勝にて御参会いただき、当面する諸案件について御審議いただけますことは、市政進展にとりまして誠に喜ばしく、感謝を申し上げます。

初めに、ラグビーに関する話題ですが、3月末には、「西の花園」に対する「東の熊谷」として高校生ラグビーが憧れる大会で知られる、全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会が、熊谷ラグビー場で開催され、熊谷高校が初出場を果たしました。昭和22（1947）年の創部以来、全国大会出場は初めてとなる快挙です。近畿地区の名門、京都工学院高校に初戦で敗れたものの、在校生や保護者、OB、そして市民の皆様の熱い声援を受け、最後まで戦い抜いた選手の姿は、私たちに、挑戦する心と未来への大きな期待を感じさせてくれました。

また、熊谷高校は、先月10日、同じく熊谷ラグビー場で開催されました、関東高等学校ラグビーフットボール大会埼玉県予選の決勝戦において、川越東高校と熱戦を繰り広げました。結果は、惜しくも準優勝となりましたが、26年ぶりとなる関東大会への出場権を手に入れました。本日から始まる関東大会は、関東地区の強豪校が集う舞台ではありますが、持てる力を存分に発揮し、更なる高みを目指して、躍動されることを心から期待しております。

そして、日本ラグビーの最高峰リーグワンで闘う埼玉ワイルドナイツでございますが、今シーズンも、上位チームの実力が伯仲

する中、栄えある「ベストキッカー」賞に輝いた本市出身の山沢拓也選手の活躍などもあり、チームは勝利を重ね、レギュラーシーズンを2位で通過しました。ここまで、常に勝利を信じ、前に進み続ける選手の姿は、私たちに多くの感動や勇気をもたらしてくれました。本市といたしましても、王座奪還を目指すチームを応援するため、応援バスツアーを実施するなどし、多くの市民やファンの皆様とともに、クボタスピアーズ船橋・東京ベイとの準決勝に臨みましたが、あと一步及ばず、決勝進出とはなりませんでした。明日、東京サンゴリアスとの3位決定戦に臨みます。チームには、勝利で有終の美を飾っていただくように、全力で熱い「青援<sup>せいえん</sup>」をお届けしたいと考えております。

活躍を続ける熊谷高校と埼玉ワイルドナイツに対し、本市といたしましても、引き続き、市民の皆様とともにチームを後押しし、「ラグビータウン熊谷」の名声を全国に届けられるよう取り組むとともに、市民皆様の愛着や誇りなどシビックプライドの醸成に努めてまいります。

続きまして、本市を取り巻く経済情勢についてです。先月末に発表された内閣府の経済報告によると、国内の景気動向としては、「景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。」とされる中、政府は物価高への対応を加速化させています。本市においても、市民の皆様に必要な物価対策を行っており、一人5千円相当分の地域電子マネー「クマPAY」を、3

月から市内全世帯の皆様へお届けし御利用をいただいているところですが、さらに、今月から、水道料金の基本料金を4か月間、全額減免する取組も始めます。中東情勢の緊迫化による日本経済への影響については、現時点で予断を許さない状況とされる中、世界情勢を踏まえた政府の経済対策を注視し、機動的に対応してまいりたいと考えております。

さて、先月の「こどもの日」にちなんで、総務省は15歳未満の子どもの数を発表いたしました。その数は45年連続で減少し、昨年よりも35万人少ない1,329万人となり、比較が可能な昭和25（1950）年以降、過去最少を更新するとともに、総人口に占める子どもの割合についても、前年から0.3ポイント低下して10.8%となり、52年連続で低下し、過去最低を更新してしまいました。子どもの割合は、世界的に見ても人口4千万人以上の38か国の中で、韓国に次ぐ2番目の低さとなっており、日本の少子化が常態化していることを、改めて認識せざるを得ない状況です。本市におきましても、15歳未満の子どもの数は、毎年連続で減少しており、特に0歳児に着目いたしますと、平成20（2008）年1月当時は1,641人でありましたが、本年1月には883人となり、この18年間で46.2%の減少となっております。

私は、この事態を、強い危機感を持って受け止めており、この流れを変えるためには、「子育てするなら熊谷市」をスローガンに、

社会全体で子育てを支える意義を認識し、子育て世代等の結婚、出産、子育てへの希望を叶える取組をより一層、速やかに、推進していかなければならないと、決意を新たにしたところでございます。

本年4月に、子育て世代への総合的な支援と健やかな暮らしを支える拠点として、子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」をオープンし、2か月が経過した現在、多くの皆様に御利用いただいているところですが、さらに、子育て世帯の経済的な負担軽減を図るために、「保育料の完全無償化」を継続するとともに、今年度から新たに、不妊治療の通院に係る交通費の助成や、「こども誰でも通園制度」も開始いたしました。加えて、小学校の給食費を無償化するとともに、中学校におきましても、食材費の高騰に伴う給食費改定分の支援を継続し、また、小中学校の体育館の空調設備や新熊谷学校給食センターの整備も着実に進めているところでございます。

地域の宝である子どもたちの健やかな成長や子育て世代への積極的な支援はもとより、将来を見据え、必要となる投資を進め、未来に希望をもち笑顔で暮らせるまちをつくることは、私の政策理念の根幹であります。この信念のもと、引き続き、全力を傾注して取組を進めることで、市民の皆様はもとより市外の方にも選ばれる熊谷市を創りあげていく覚悟でございます。これからも、施策の一つ一つを、真摯に、そして誠実に進めてまいりますので、議員皆様、市民皆様には、格別なる御理解と御協力をお願い申し

上げます。

それでは、今定例会に提案いたします議案につきまして、御説明申し上げます。

今回の補正予算でございますが、一般会計補正予算のみでございます。初めに、歳出につきまして、主なものを御説明申し上げます。総務費におきましては、整備中の（仮称）第2中央生涯活動センターにつきまして、賃金等の急激な変動に対処するため、請負代金の変更契約に対応する工事請負費の増額を行うもので、賃金や物価水準の変動に応じた請負代金額等の適正化を図るものでございます。民生費におきましては、主に平成25年から実施された生活扶助基準改定により、生活保護費が減額されていた方に対して、最高裁判決の結果を受け、国の方針に基づき、速やかに差額分の追加給付を行うものでございます。

次に歳入でございますが、今回の補正の財源として、国・県支出金などの特定財源のほか、前年度繰越金を充てるものでございます。以上が補正予算案の概要でございます。

また、一般議案といたしましては、主に、軽自動車税の障害者減免等の継続手続の負担を軽減するため、継続減免申請書の提出を不要とし、減免を継続するための「熊谷市税条例の一部を改正する条例」などを提案しております。

議員皆様におかれましては、慎重審議の上、御可決賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明とさせていただきます。